

ピカソの原動力

彫刻の森美術館 ピカソ館

展示作品リスト

※展示作品が変更される場合があります。2025.6.29

ピカソは、創作を引き起こす原動力となり作品を構成する重要なモチーフに、自分自身を重ねあわせ、度々、作品に登場させます。あるときは半獣半人の怪物ミノタウロスに。またあるときはモデルを描く画家として。そこに描かれているのは、愛と悲しみ、暴力と死、そして生きる喜びです。このような同一視は、湧き起こる感情をおさえ込む手段であり、心のうちをかたちにする方法であったと言えるでしょう。今回の展示では、コレクションを20のテーマに分け、創作モチーフからピカソ像を読み解く機会になりますと幸いです。

展示室1

1 バプロ・ガルガリョ
ピカソの肖像
1913年
ブロンズ

ミノタウロス

2 ミノトロマンシー
1982年(原版画1935年)
タビスリー

キュビズムの表現

3 イタリアの女
1917年
水彩、紙

男の顔

4 男の顔
(原画1967年7月31日)
タビスリー

5 腕を組む男
1964年12月31日
油彩、キャンバス

6 座る男
1966年12月26日
鉛筆、紙

画家とモデル

7 156シリーズ No. 150
1971年6月7日-10月6日
アクアティント、ドライポイント、紙

8 ジャクリーヌの顔
1956年1月22日
セラミック

9 冠をかぶる女
1965年1月16日
油彩、キャンバス

10 画家とモデル
1963年3月5日-9月20日
油彩、キャンバス

11 パレット
1961年6月3日
陶板

12 女と四つの男の顔
1972年7月23日
グワッシュ、紙

13 ピエロのポール
(原画1929年)
ジュマイユ

14 アルルカンのサルバド
(原画1923年)
ジュマイユ

女の顔

15 女の顔
1905年
エッチング

16 女の横顔
1956年頃
セラミック

17 イタリアの女
1918-19年
エッチング

18 顔
1928年
リトグラフ、紙

子供

19 二人のサルタンバンク
1905年
ドライポイント、紙

20 フルーツ奏者と子ども
1971年9月1日
鉛筆、紙

21 子供
1956年頃
セラミック

22 クロードの顔
1958年7月21日
陶板

23 アルルカン
1905年
ブロンズ

カリカチュア(戯画)

24 フランコの夢と嘘 第1葉
1937年1月8日
エッチング、アクアティント、紙

25 フランコの夢と嘘 第2葉
1937年1月8日-9日、6月7日
エッチング、アクアティント、紙

展示室2

丸い顔

26 顔
1963年6月14日
セラミック

27 顔
1963年6月14日
セラミック

28 顔
1963年6月14日
セラミック

29 顔
1963年6月14日
セラミック

30 顔
1963年6月14日
セラミック

動物

31 スカラベ
1958年12月15日
セラミック

32 花
1948年頃
セラミック

33 魚
1947年頃
セラミック

34 鳥の顔
1963年6月1日
セラミック

35 蛇と魚
セラミック

36 魚と太陽
セラミック

鳥

37 鳥
1953年頃
セラミック

38 みみずく
1957年頃
セラミック

39 鳥
1954年頃
セラミック

40 鳩
1953年頃
セラミック

41 鳥
1954年10月13日
セラミック

42 二羽のみみずく
1950年8月7日
セラミック

43 みみずく
1954年頃
セラミック

牡牛と闘牛士

44 牡牛の頭
1956年11月23日
セラミック

45 闘牛
1957年6月18日
セラミック

46 ビカドール
1959年7月1日
セラミック

47 アラストレ
1959年7月1日
セラミック

48 バンデリーリャ
1959年7月1日
セラミック

49 牡牛
1957年5月13日
セラミック

50 闘牛士
1947年10月3日
セラミック

51 牡牛
1959年6月28日
セラミック

四角い顔

52 顔
1961年3月21日
セラミック

53 顔
1961年3月21日
セラミック

54 牧神の顔
1956年頃
セラミック

55	顔 1956年12月17日 セラミック
56	顔 1961年3月21日 セラミック
57	顔 1961年3月21日 セラミック
58	顔 1961年3月21日 セラミック
59	顔 1961年3月21日、4月12日 セラミック
60	顔 1956年 舗装用煉瓦
61	顔 1961年3月21日 セラミック
62	顔 1961年3月21日 セラミック
63	顔 1961年3月21日 セラミック
静物	
64	模様のある花瓶 1947年頃 セラミック
65	静物 1956年3月10日 セラミック
人物	
66	首飾りをつけたヴィーナス 1947年3月18日 セラミック
67	二人の人物 1957年 舗装用煉瓦
68	走る人 セラミック
69	顔 1957年頃 セラミック
70	顔 1957年頃 セラミック
71	顔 1957年頃 セラミック
72	顔 1957年頃 セラミック
73	水浴者 1961年頃 セラミック
74	水浴者 1961年頃 セラミック

75	月の下の子供 1963年頃 陶板
ゆかいな顔	
76	二つの顔 セラミック
77	女 1961年頃 セラミック
78	二つの顔の花器 1952年8月24日 ブロンズ
79	顔 セラミック
80	三人の人物 1948年1月14日 セラミック
81	顔 1965年6月21日 セラミック
82	顔 1956年頃 セラミック

展示室3

男と女	
83	横たわる裸婦と二つの男の顔 1972年2月28日 水彩、紙
84	男の顔と裸婦 1972年6月4日 インク、紙
85	グラスを持つ裸婦と顔 1972年8月18日 インク、紙

音楽と宴	
86	浜辺の踊り 1946年8月26日 水彩、紙
87	子山羊と観客のいるパッカス祭 1959年11月27日 リノカット、紙
88	草上の昼食 1964年 陶板
89	音楽師と男と女 1967年1月2日 鉛筆、紙
晩年	
90	男の顔 1972年7月12日 パステル、紙
91	男の顔 1972年6月27日 水彩、色鉛筆、紙

タウロマキア	
92	野原の牡牛たち
93	闘牛場へ向かう群衆
94	クアドリーヤス（闘牛を行う一座）の入场
95	ドン・タンクレド（人気のあった技）による呼び込み
96	牛小屋から出る牡牛
97	カーバ（闘牛士のマント）で牡牛を誘う
98	ベロニカ流の闘牛術（古典的な技）
99	長槍による跳躍
100	おとなしい牡牛を退場させる誘導牛
101	槍で突き刺す
102	牡牛に犬をけしかける
103	牡牛を刺すピカドール（馬上から槍で刺す役）
104	牛をけしかけるバンデリリエーロ（馬上から銛を刺す役）
105	バンデリーリャ（銛）を突き立てる
106	椅子に座って銛で牡牛を誘うバンデリリエーロ
107	牡牛の死を捧げるマタドール（最後にとどめを刺す主役）
108	ムレータ（棒に巻いた赤い布）で牡牛を誘う
109	牡牛が角で闘牛士を突き上げる
110	殺すための呼び込み
111	とどめの剣を突き刺す
112	牡牛の死を告げる闘牛士
113	牡牛の死
114	死んだ牡牛を引きずり出す
115	熱狂した観衆の肩にかつかれ退場する闘牛士
116	レホン（特殊な槍）を持って牡牛を誘い込む
117	牡牛をレホン（特殊な槍）で突く

牧神とパッカス祭	
118	牧神の顔 1956年頃 セラミック
119	クローバー 1958年 銀
120	ひげのある顔 1948年1月24日 セラミック
121	踊り子と牧神 1957年2月27日 セラミック
122	笛あそび 1967-68年 金

123	パッカント 1967-68年 金
124	シンバルあそび 1967-68年 金
125	ケンタウロスI 1966-68年 金
126	牧神の顔 1947年10月17日 セラミック

記録、他

詩	《フランコの夢と嘘》に添えられたピカソの詩 1937年 神谷敬三訳『ピカソ 愛と苦悩―「ゲルニカ」への道』展図録、東武美術館／朝日新聞社、1995-96年、p.295
---	---

写真	デイヴィット・ダグラス・ダンカン 1957年頃 9点
----	----------------------------------

映像	ピカソの挑戦 ―かたちの変貌― 4分30秒
----	-----------------------------

映像	フランコの夢と嘘（詳細） 4分 協力：砂盃次代、群馬県立近代美術館
----	---

映像	ミステリアス・ピカソ ―天才の秘密― 監督：アンリ=ジョルジュ・クルーゾー 1956年／フランス映画／1時間18分／白黒・パートカラー 提供：株式会社アイ・ヴィー・シー
----	--

2	制作：イヴェット・コキール=ブランヌ
4	制作：ジャクリヌ=ド・ラ・ボーム=デュルバック

13,14	制作：ロジェ・マレルブ・ナヴァル
-------	------------------

119	制作：フランソワ・ユーゴー、ビエール・ユーゴー
-----	-------------------------

122-	制作：フランソワ・ユーゴー、
125	ビエール・ユーゴー

	私が歩んできた道をすべて地図に記し、線で結んだとしたら、それはミノタウロスを表わすかもしれない。 ――パブロ・ピカソ
---------------	---

	"Picasso in Antibes" by Dor de La Souchère, 1960, p.54, "Picasso on Art: A Selection of Views", by Dore Ashton, New York, 1972, p.159
---------------	---

	絵は事前に考えられて決まるものではない。制作中に、考えが変わると、それが変化する。完成した後も、見る人の心の状態に応じて変化し続ける。絵画は生き物のように命を吹き込まれ、日々私たちの生活によって変化する。絵はそれをみている人を通してのみ生きるのだから。これは当然のことである。 ――パブロ・ピカソ
---------------	---

	"Conversation ave Picasso" in Cahiers dart by Christian Zervos, 7/10, Paris, 1935, pp.173-174
---------------	---